

代々の太宰府天満宮

味酒安行は師の菅原道真(845~903年)をたたえるため、905年に太宰府天満宮の最初の典型を建立しました。何世紀にもわたり、火災や戦争、自然災害、および大規模な改修により、太宰府天満宮の形と規模は変わってきました。

さまざまな絵画や地図が、何世紀にもわたる神社の変化を年代順に記録しています。社殿の配置を示す現存する最古のスケッチは1498年後、記していますが、1294年の文書で参照されたすべての建物も正確に記載しています。国の重要文化財である地図10は17世紀末のもので、神社の境内の概要を示しています。

絵画には江戸時代(1603~1867年)のものが含まれています。それは他の描写には見られない境内にある九重塔と五重塔を表現しています。現在見ることができる本殿は1591年に建てられたもので、安土桃山時代(1568~1603年)の建築の好例です。華麗で色彩豊かであり、室町時代(1336~1573年)の重厚な色調からの大きな変化があります。